

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
総括研究報告書 1
ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究
「令和5年度研究総括」

研究代表者 林玲子 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

死因・疾病分類を ICD-10 から ICD-11 へ移行するために、新しい死因簡単分類(表1)、および ICD-11 に準じた死因・疾病分類(表2)を提案した。また、ICD-11 の最小項目と標準病名マスターによる分類の対応を継続検討した。

新しい死因簡単分類は、ICD-11 の章構造の変化に応じ、①血液及び造血器の疾患と免疫機構の障害の分離、②睡眠障害、③性の健康の新設、ICD-11 の章を超えた疾病の位置づけの変化により①インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症、②脳血管疾患の移動、ICD-11 の章内の構造変化に応じ、中枢神経系の新生物・悪性リンパ腫・白血病の位置の移動、ICD-11 の死因製表用リストの項目新設により、日本において死亡数の多い項目の挿入(子宮頸部・体部・部位不明悪性新生物、腎・腎盂の悪性新生物、栄養失調、代謝障害、レビー小体病、アルコール性肝疾患、肝線維症及び肝硬変、胆のう・胆管の障害、膵の障害、診断名不明確及び原因不明の死亡)、現在の死因簡単分類には含まれていないが人口動態統計の公表資料に別掲されている中皮腫、熱中症の追加、および 1000 人を下回る死亡数の項目の削除を施し作成した。現行で 136 の項目を 130 項目に抑えている。

疾病分類については、その用途および国際的に用いられている疾病分類を考慮し、患者調査データと NDB データによる疾病体系を比較したうえで、必要とされる疾病分類をまずは設定する必要がある。

老衰、心不全を含めた心疾患、がん、精神・神経系疾患、外因、生活機能について既存の分類の課題、ICD-11 適用時の改善に関する知見が得られ、今後の分析手法が構築された。

研究分担者：

別府志海 国立社会保障・人口問題研究所 情報調査分析部 第2室長
石井太 慶應義塾大学 経済学部 教授
篠原恵美子 東京大学 大学院医学系研究科 特任助教
大津唯 埼玉大学 大学院人文社会科学研究科 准教授
丸井英二 人間総合科学大学 大学院人間総合科学研究科 教授
木下博之 香川大学 医学部 教授

橋本英樹	東京大学 大学院医学系研究科 教授
野口晴子	早稲田大学 政治経済学術院 教授
奥山絢子	聖路加国際大学 看護学研究科 教授
成田瑞	国立精神・神経医療研究センター行動医学研究部 精神機能研究室 室長
大冢賀政昭	国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部 主任研究官
高橋秀人	帝京平成大学薬学部 教授
小川俊夫	摂南大学 農学部食品栄養学科 教授
今井健	東京大学 医学系研究科疾患生命工学センター医工情報学部門 准教授
今村知明	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授
東尚弘	東京大学 大学院医学系研究科公衆衛生学分野 教授

研究協力者：	
泉田信行	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 部長
盖若琰	国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 第4室長（令和5年12月まで）
今永光彦	奏診療所 医師
澤明	ジョーンズホプキンス大学 教授
石塚公子	ジョーンズホプキンス大学 助教授
山口佳小里	国立保健医療科学院
重田史絵	立教大学

A. 研究目的

ICD-11（国際疾病分類第11版）は2019年5月に世界保健総会で採択され、2022年1月に発効した。第10版の採択から29年を経て、医学とそれをとりまく情報環境の進展もあり、大項目数が22章から28章へ、収録コード数は1万6千から3万5千へと拡大、伝統医学（26章）や生活機能（V章）、拡張コード（X章）の追加など、その内容と構成は拡張された。

長年使われてきたICD-10とそれに応じた日本における死因分類、とりわけ基本分類、簡単分類、年次推移分類は、1995年のICD-9からICD-10への改訂時の死因構造を色濃く反映しており、近年の死因構造に追隨できていない点が少なくない。また前回改定時に心疾患が急に減少するなど死

因統計制度の変化は実際のデータに影響を与える。医療の進歩と長寿化により、例えばICDでは診断名不明確な病態とされている老衰による死亡が総死亡数の11.4%を占め（2022年）、心不全を死因とする死亡の増加、自宅における死亡の死因把握など「死因不明社会」克服の施策はいまだ万全ではない。

ICD-11の詳細性・拡張性は、死亡統計はもとより疾病統計において活用されるべきものである。従来から疾病統計として用いられている患者調査に付け加え、医療サービスのほとんどが同一の支払い制度に基づいているわが国における医療・介護レセプトデータは他国には見られない貴重なデータであり、それらを用いて、ICD-11の詳細性を生かした疾病分類を作成しデータ

利用を推進する必要性は高まっている。がんについては、全国がん登録の罹患集計に ICD 分類が用いられ、今後 ICD-11 にどのように対応するか検討が必要となっている。精神医療においては ICD による疾病名とは別次元で病態別分類を用いるような、多元的な分類法の必要性が高まっており、ICD-11 の拡張性が生かせる可能性がある。さらに、ICD-11 には V 章が設定され、ICF や WHODAS といった、生活機能に関わる分類を死因・疾病や拡張コードに連結することも可能となり、その具体的手法が模索されているところである。

このような状況のなか、本研究は、長期的、国際的に整合的で、ICD-11 の詳細性、多次元性、拡張性を活用し、日本の死亡・疾病の状況を効率的に把握できる新たな死因・疾病分類表を提案することで、我が国の死因・疾病統計の向上を図ることを目的とした。

B. 研究方法

本研究は、以下の 5 つの項目について研究を行う。

1. 死因・疾病分類表: 長期的、国際的に整合的で、ICD-11 の詳細性、多次元性、拡張性といった特性を活用した新たな死因・疾病分類表を提案する。

2. 標準病名マスター対応表整備: わが国の各種保健医療情報の基盤の一つである ICD-10 対応標準病名マスターと ICD-11 との対応に関する分析を通じ国内適用のための基礎資料を提供する。

3. 死因統計の改善: 老衰、心不全、外因による死亡等、現状で課題のある死因統計が ICD-11 の枠組を用い適切に把握するための死因分類を作成する。

4. 疾病統計の改善: 患者調査、NDB データ

等を用い、がん、精神・神経系疾患、心不全を含む、日本における疾病構造に適切に対応した ICD-11 枠組みによる疾病分類を作成する。

5. ICD-11V 章の活用: ICD-11V 章を用いた生活機能・要介護・健康逸脱状態を適切に把握する統計分類を提案する。

6. 1~5 の研究実施のために、国内外の学会、国際会議で情報収集・意見発信を行い、研究成果を公表する。

初年度である令和 5 年度は、項目別に以下を実施した。

1. 死因・疾病分類表

人口動態統計死亡個票、死亡オンライン個票、2016 年ブリッジコードデータ、患者調査の調査票情報提供申出を行い、以下の項目の研究を進めた。

a. 章別の死亡者、外来患者、入院患者数が ICD-10 と ICD-11 でどのように変化するか、2022 年人口動態統計死因統計、2020 年患者調査のデータを用いて集計し、WHO による ICD-10、ICD-11 の製表用分類、日本の ICD-10 準拠の死因簡単分類、疾病分類表（小分類）を比較し、ICD-11 に対応した新しい分類案の作成が可能か検討した（林総括研究報告書 2 参照）。

b. WHO 製表用分類 2023 と基本分類表 2013 の死因・疾病分類の組み合わせコードを作成し、新たなコードに対応した死亡者数と推計患者数を推計した（小川・今井・今村・東分担研究報告書参照）。

c. 死因・疾病分類表の長期推移比較を可能とするために、ICD-9 から ICD-10 への不連続性を解消する死因統計再構築を行

った(大津分担研究報告書参照)

d. 死因・疾病分類表の長期推移比較を可能とするために、2016年ブリッジコードデータを用いて、ICD-10の2003年版から2013年版への更新による2016年から2017年の死因別死亡の変化について分析した(別府分担研究報告書1参照)。

e. 国際的に整備されている Human Cause-of-Death Database (HCD) による分類表と整合的な分類表の検討を行った(石井分担研究報告書参照)

f. 以下の研究会を行った。

- ・ 令和5年10月4日 長期的・国際的に整合的な死因・疾病分類に関する情報交換および研究方針についての議論、オンライン(zoom)開催
- ・ 令和5年11月6日 報告「日本版死亡データベースの死因分類とその死因分析への応用」石井太(慶應義塾大学)および討議、オンライン(zoom)開催
- ・ 令和6年3月8日 死因長期分類についての報告・議論、オンライン(zoom)開催
- ・ 令和6年3月5日 報告「プライマリ・ケアにおける医療ニーズの検討ープライマリ・ケア国際分類を用いて」前野貴美(筑波大学)および討議、国立社会保障・人口問題研究所および zoom によるハイブリッド開催
- ・ 令和6年3月26日 報告「統計データを通して見る政治体制の差異」安中進(弘前大学)および討議、国立社会保障・人口問題研究所および zoom によるハイブリッド開催

2. 標準病名マスター対応表整備

標準病名マスターと ICD-11 用語和訳作業結果を統合した ICD-11 対応の統合標準病名集の開発に向けた基礎資料を継続作成した(小川・今井・今村・東分担研究報告書参照)。

3. 死因統計の改善

人口動態統計死亡個票、死亡オンライン個票の二次利用申請を行い、以下の項目の研究を進めた。

a. 老衰の分析

- ✓ 死因統計における老衰死亡について分析し、老衰の死亡診断書の記載に関わる質的調査のインタビューガイドを検討し、調査準備を行った。
- ✓ 老衰死の性比の推移を分析した(丸井分担研究報告書参照)。
- ✓ 老衰に関する以下の研究会を行った。
 - ・ 令和5年7月20日 老衰に関するこれまでの研究報告と今後の計画についての報告および議論、zoom によるオンライン開催
 - ・ 令和5年9月8日 老衰のインタビューガイド作成に関する議論、zoom によるオンライン開催
 - ・ 令和5年10月17日 老衰のインタビューガイドのテストに関する議論、zoom によるオンライン開催
 - ・ 令和5年11月27日 報告「老人保健施設における看取りと「老衰死」の現状について」大河内二郎(公益財団法人全国老人保健施設協会 常務理事・学術委員長、介護老人保健施設 竜間之郷 施設長)および質疑、オンライン(zoom)開催

b. 循環器系疾患の死因および疾病統計について、ICD-10からICD-11の移行による変化を把握し現状を分析した(橋本分

担研究報告書、林・橋本・篠原総括研究報告書3参照)。

以下の研究会を行った。

- ・令和5年12月22日 循環器系疾患の分類変更に関する分析と議論、zoomによるオンライン開催
- c. 外因死について、溺水についての詳細分析を行った(木下分担研究報告書参照)。
- d. 死亡オンライン個票を用い、テキストデータをコード化したうえで、COVID-19を含めた、複合死因分析を行った(篠原分担研究報告書、別府分担研究報告書2参照)。

4. 疾病統計の改善

患者調査の調査票情報、NDBデータの提供申出を行い、それぞれ12月、3月に提供を受けた。同時に以下の項目の研究を進めた。

- a. NDBデータの主疾病予測モデルの理論的構築を行った(野口分担研究報告書参照)
- b. がんについて、ICD-11適用によるがん登録への影響を文献により把握すると共に、全国がん登録データの提供依頼を行った(奥山・東分担研究報告書参照)。
- c. 精神・神経系疾患について、既存統計の整理を行い、ICD-11移行による変化を確認すると共に、抑うつ症および不安または恐怖関連症群について詳細検討した(成田分担研究報告書参照)。
- d. 以下の研究会を行った。
 - ・令和5年7月18日 ICD-10とICD-11及び日本の死因簡単分類、疾病小分類の

比較、および精神・神経系疾患の原死因・複合死因の関係について資料を基に討議、zoomによるオンライン開催

- ・令和5年8月9日 精神・神経系疾患の分類に関する既存研究の報告と討議、zoomによるオンライン開催
- ・令和5年8月25日 報告「精神・神経系疾患におけるICD-11の適用について」神庭重信(飯田病院臨床研修センター長、九州大学名誉教授)および質疑、zoomによるオンライン開催

5. ICD-11V章の活用

- a. V章のコードの構成や特徴、国内外における活用に向けた動向について整理を行い、公的データベースにおけるICD-11の疾病情報とV章にかかわる生活機能情報の該当有無の確認を行った(大冢賀分担研究報告書参照)
- b. ICD-11 V章に収載される「生活機能」項目と、WHODAS2.0、Washingtonのショートセット6項目の対応を確認し、内閣府2020年調査、生活のしづらさなどに関する調査の結果に適用した(高橋分担研究報告書参照)。

6. 国内外での会議等を通じた情報収集・発信

以下の国際会議に参加し、情報収集・発信を行った。

- ・令和5年6月: アジア/オセアニア国際老年学会議2023(横浜市)
- ・令和5年7月: ドイツ連邦人口研究所50周年記念国際会議(ドイツ・ウィースバーデン)
- ・令和5年10月: WHO-FICネットワーク年次会議(ドイツ・ボン、オンライン)

- ・令和5年11月: アジア太平洋人口開発会議 (タイ・バンコク)
- ・令和6年3月: 日本国際保健医療学会 第42回西日本地方会 (高知県高知市)

(倫理面への配慮)

統計法に基づく調査票情報の提供依頼および利用は、統計法に基き適正に行った。NDB データの利用申請はサンプルデータであり、規定に従い適切に申請した。全国がん登録データは、老衰の死亡診断書の記載に関わる質的調査データについては、所属機関の倫理審査委員会の審査を経たうえで申請中である。

C. 研究結果

1. 死因・疾病分類表

- a. 現行の死因簡単分類、疾病分類 (小分類) を、それぞれ WHO の ICD-10、ICD-11 の製表用リストと比較したところ、三種類を合わせた項目数は死因分類で 246 のところ、疾病分類では 635 となった。そのため、死因分類は死因簡単分類を ICD-11 に合わせる事が可能と判断し、新しい死因簡単分類案を作成した。疾病分類については、そのまま日本の小分類をベースに ICD-11 対応 WHO 製表リストと整合的な小分類案を作製することは困難であると考えられた (林総括研究報告書 2 参照)。
- b. WHO 製表用分類 2023 と基本分類表 2013 を組み合わせて新たな基本分類表・死因コード、疾病コードを試作し、死亡数、推計患者数を新たなコードで集計することが可能であることを確認した (小川・今井・今村・東分担研究報告書参照)。

c. 1995 年の ICD-10 導入における死因別死亡数の統計の不連続が、死因 (4 桁分類) 別かつ性・年齢階級別でも概ね解消されたことを確認し、1981 年以降の日本の長期時系列死因統計を再構築する作業を完了した (大津分担研究報告書参照)。

d. 2017 年の ICD の変更により最も変化が大きかった死因は旧 J18「肺炎, 病原体不詳」で 3,063 件が他の死因へ移行しており、これは ICD の変更により死因が変更となった 10,619 件の 29%を占める。旧 J18「肺炎, 病原体不詳」は、新分類で神経系の疾患 (G00-G99、1,028 件) が最も多く、次いで精神及び行動の障害 (F00-F99、519 件)、呼吸器系の疾患 (J00-J99、401 件) の順に多い (別府分担研究報告書 1 参照)。

e. 我が国の長期的死因分析に適した死因分類としては、現在の死因簡単分類程度の粒度を有するとともに、HCD との一定程度の整合性を保ちつつ、ICD9 以前の年次についても連続的に観察できるように設定することが望ましいと考えられた (石井分担研究報告書参照)。

2. 標準病名マスターの ICD-11 対応表整備

WHO による ICD-11 の定期的な変更に合わせて、これまでの研究で修正検討が行われていなかった章を対象に、国内標準病名からの ICD-11 コーディング作業を行った。現在特に数の多い ICD-10 19 章 (損傷中毒: 10,489 語) 並びに 2 章 (新生物: 7,292 語) の標準病名を対象に修正作業を行った (小川・今井・今村・東分担研究報告書参照)。

3. 死因統計の改善

a. 老衰は、ICD-10 と同様 ICD-11 においても、一つの項目として「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に含まれている（コードは ICD-10 では R54、ICD-11 では MG2A）。ICD-10 の WHO 死因製表用リストでは老衰は一つの分類とはされていなかったが、ICD-11 の WHO 死因製表用リストには、日本の死因簡単分類同様、老衰が一つの分類（M138）となった。ただし ICD-10 で“Senility”とされていた名称について、高齢者蔑視に繋がる、ということで議論があり、新たな名称は“Ageing associated decline in intrinsic capacity（老化に関連した内部機能の低下）”となった。現状で Global Health Estimate などの WHO 死因統計では、老衰死亡が不明確な死亡としてすべての死亡に均等に割り振られる対象となっているが、今後 WHO がどのように老衰死を位置付けるのか注目に値する。

近年日本において、老衰死が大きく増加しているが、死亡診断書の記載を行う医師の認識がすべて同様であるわけではない。このようなことから、どのように死亡診断書に「老衰」と記載しているのか、質的調査を行うことにより把握することとし、そのためのインタビューガイドは現在倫理審査委員会に付議しているところである。

女性は男性よりも「老衰死」の割合が高い。これは死亡年齢が高いためだけではなく、年齢階層別にみてもどの年齢層でも女性は男性の約 1.5 倍となっており、過去 100 年ほどにわたり同様の傾向がある（丸井分担研究報告書参照）。

b. ICD-10 では 3 種類であった心不全のコード（I50.0、I50.1、I50.9）は、ICD-11 では 11 のコードが割り振られ、左室不全のうち、駆出率が保たれているか低下しているかといった状況も区別できるようになり、臨床のニーズに対応した。しかしながら現状で心不全が原死因である死亡診断書に左室不全の駆出率に関わる記載は全くなかった。現状の DPC 分類は左室不全の駆出率、収縮機能に応じて点数が区別されているわけではなく、区別して適切な治療を行うインセンティブが生じていないと考えられる（橋本分担研究報告書、林・橋本・篠原総括研究報告書 3 参照）。

c. 外因死に関しては、剖検例で薬物が影響したと考えられる溺死例を記録し、その関与の度合いをどのように死因統計に反映する方策があるかが課題であることが明らかになった。溺死以外の外因死の事例についても、影響する因子について同じような課題がある可能性が考えられた（木下分担研究報告書参照）。

d. 死亡オンライン個票のテキストデータは自由入力データであり、統計処理に用いるためにはコード等への正規化が必要である。平成 15 年から令和 4 年までの 2000 万件を超える全データの 95%以上を自動で正規化を行うことが出来た（篠原分担研究報告書）。

上記データを用い、新型コロナウイルス感染症による死亡の複合死因分析を行ったところ、2020～2022 年の間、新型コロナウイルス感染症が原死因である死亡は、多くの場合で新型コロナウイルス感染症が I 欄アに記載されており、約半数には II 欄に何らかの疾病が記載されて

おり、糖尿病や慢性腎臓病、心不全や脳梗塞といった疾患が多かった（別府分担研究報告書2参照）。

4. 疾病統計の改善

a. DPC/PDPS レコードを「教師」として学習した、主傷病の予測モデルを基に、レセプトデータから主傷病を予測するために、NDB サンプルングデータ基にしたデータベースの構築を行った（野口分担研究報告書参照）。

b. がんについて、ICD-11 適用によるがん登録罹患集計への影響を評価するため、がん登録の現状と課題を先行研究から整理した。結果、ICD-11 適用によるがん罹患集計への影響については、がん登録の実施状況を鑑みると、がん登録のコーディングや登録対象の範囲など登録のルール、医療機関における病名等を用いた登録対象例の見つけ出しへの影響、そして ICD-O に基づいて登録された情報の ICD-11 へ変換による集計値の変化、それぞれについて検討する必要があることがわかった。特に ICD-11 では、中枢神経系、造血器・リンパ組織の新生物は別の枠組みに位置付けられたことから、がん罹患集計の継続性をどのように担保する検討する必要がある（奥山・東分担研究報告書参照）。

c. 精神・神経系疾患については、脳血管神経が神経系疾患に移行したことの他に、性の健康にかかわる章の新設、24 章の健康行動関連問題にゲーム障害が入ったことなど、多くの変化がある。

「精神及び行動の障害」章は疾病(diseases)ではなく障害(disorder)と

なっているが、精神の障害は、他の疾病と異なりその様相が記述されるものであり、原因が分かったものは神経系疾患や染色体異常(例えばレット症候群)に繰り入れられ、原因のわからないものが「精神及び行動の障害」章に残る、という特性がある。

精神疾患に関し標準的に使われているマニュアルは DSM(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders)であるが、ICD-10 と DSM4 はあまり連動していなかったが、ICD-11 と DSM5 は、作成時から連携していたこともあり、親和性がある。

認知症が精神障害、アルツハイマー病が神経系疾患という分け方にはこれまでも議論があり、ICD-11 検討当初、認知症が精神章から神経章に移動したが、国際神経学会と世界精神医学会で意見の対立があり、結局従来通りとなった。認知症ではなく MCI(軽度認知障害)の場合、複合コーディングを用いて記述できる。血管性認知症とアルツハイマー病による認知症は、死亡間際になると重複している場合もあり、検査もなかなかできないことから、まったく別個のものとはいいにくい。認知症を発症すると予後は短く、最後は誤嚥性肺炎で、というのが多くあるパターンであるが、このような場合、原死因は認知症ではなく老衰とみなした方がよいと考えられる。しかし認知症により老衰が早まる、といった側面もある。

ICD-11 への移行によって、多くの精神疾患が ICD-10 とは異なる名称やカテゴリに分類されるようになった。とりわけ、抑うつ症および不安または恐怖関連症群は、日本を含めた各国において有病率が高い病態であるにも関わらず、移行によって大きな変更が生じた疾患群である。これらの新

しい名称やカテゴリに対する臨床や研究などにおける運用について把握し、適切なICD-11の使用方法について検討が必要である(成田分担研究報告書参照)。

5. ICD-11V章の活用

ICD-11に導入されたV章のコードの構成や特徴、国内外における活用に向けた動向について整理を行った。次に、ICD-11V章を構成する評価ツールであるWHODAS2.0を用いて高齢者福祉・障害者福祉施設の利用者を対象として生活機能の状況を把握した調査データの二次分析をもとに、ICD-11V章とICDの連結による情報を生成し、その活用方法を検討した(大冨賀分担研究報告書、高橋分担研究報告書参照)。

6. 国内外での会議等を通じた情報収集・発信

国内外での会議により、以下の知見が得られた。

✓ WHO-FICネットワーク年次会議: ICD-11の各国での導入状況について説明があり、開発途上国を含め各国でICD-11導入に向けた準備が進められていると報告された。また、ICD-11導入に向けた教育ツールの開発やICD-11メンテナンスツールの開発なども進められており、ICFやICHIとの統合に向けた作業も進められているとの報告があった。さらに、MedDRA、Orphanet、SNOMEDやMONDOなど外部のデータベースとの統合に向けた準備や話し合いが進められているとの報告があった。直近(2024年5月7日)のITC Mid-Year Meetingでは、日本における「標準病名からICD-11へのマッピング」の結果から、WHOマッピングテーブルとの(1)

完全一致: 74%, (2)部分一致(STEMのみ): 15%, (3)不一致 10%であること、またその実例を報告し、マッピングテーブルの各国による継続的な評価と修正の必要性、FDC及びカウンスルでの継続議論の必要性が再認識された(小川・今井・今村・東分担研究報告書参照)。

✓ ドイツ連邦人口研究所50周年記念国際会議: 新型コロナウイルス以降、フランスでは通常の死因統計の公表が2017年までしか公表されていない、などと、統計の混乱がある。欧州の死因統計研究者は、ICD-11を用いた分析はまだ先のこと、といった反応が聞かれた。また、スウェーデンでは死亡の1/3は老衰と言っても差し支えない、という意見もあった。

✓ アジア太平洋人口開発会議: 死因統計以前に、登録に基づいた死亡統計がまだ不十分な国が多い中、モルディブなど進展がみられる国もでてきている。

D. 考察

✓ 今年度は、日本の既存の死因簡単分類をベースにICD-11に対応した新たな死因簡単分類(表1に再掲)、WHO製表分類2023をベースにした死因・疾病分類(表2・3に再掲)の二種類を研究班から提示した。それぞれのアプローチは異なり、現段階では異なったものであるが、次年度以降、相互の知見を共有しながら案を継続作成する予定である。

✓ ICD-10からICD-11への移行における論点は、最小単位である項目のWHO ICD-10コード、ICD-11コード、日本における基本分類および標準病名マスターの対応を検証することと、それら最小単位をどのようにまとめて分類をつくるか、という二点に区別される。

✓ 前者、つまり最小単位の傷病コードについては、WHO による ICD-11 コードにおいても継続的な修正が必要であることや、例えばがん登録・罹患集計に用いられている ICD-O と ICD-11 の対応表は未公表であり、がん登録を行う側からみると、ICD-11 のコードは規則性が弱く、がん登録の実務者にとっては ICD-O の方が使いやすい可能性があることなど、単に翻訳しただけではすまされない課題がある。

✓ 後者、つまり最小単位コードをどのようにまとめて分類をつくるか、については、死因分類と疾病分類で異なった状況である。死因分類は、WHO ICD-10 製表用リスト、WHO ICD-11 製表用リスト、日本の死因簡 単 分 類 、 Human Cause-of Death Database(HCD)国際プロジェクトで用いられている死因分類はいずれも 100~200 程度の分類項目数であり、ある程度比較可能である。しかし疾病分類については、その分類項目数が 300 前後であり、共通項目も少なく、国際的に比較可能な疾病小分類を作ることは難しく、またそのようなニーズがあるのか、検討を要する。

✓ 死因分類は、日本では死因簡 単 分 類 (2022 年では 136 項目) が、死因として一番知られる順位分類の基礎となり、また月報(概数)で用いられるため死亡発生後の 5 か月後に初めて明らかになる死因を提供するもので、主要な分類であると考えられ、そのため今年度は死因簡 単 分 類 の 新 し い 案 を 作 成 し た 。 順 位 分 類 に つ い て も 、 検 討 す べ き 点 は 多 く 有 る 。 例 え ば 、 血 管 性 等 の 認 知 症 (F01-F03) と アルツハイマー病 (G30) が別の順位としてそれぞれ上位 10 位に入っており、臨床上必ずしも明瞭に区別されている訳ではない二つの疾患を順位としては合算した方がよいのではない

か、とも思われる。また 2017 年より死因基本分類に誤嚥性肺炎(J69)が設定されたため、肺炎と誤嚥性肺炎が別の順位として上位 10 位に入っている。誤嚥性肺炎はアルツハイマー病を含めた認知症を持つ人が誤嚥性肺炎となり死亡に至る、というプロセスが多く、その場合、誤嚥性肺炎とアルツハイマー病、血管性等の認知症のいずれを原死因とするべきか、また肺炎との区別も死亡診断書記載の時に正しく記載されているのか、さらには老衰との違いは何か、といった点を考えると、検討が必要であると考えられる。また、英国では悪性新生物を部位別に分けた分類を順位に用いており、そのため認知症が死因第 1 位となるが、日本の場合は悪性新生物を 1 つにまとめて順位分類に用いられており、悪性新生物が死因第 1 位となっている。順位分類の設定の仕方で死因順位は大きく変化し、現状で日本の死因順位は国際的には用いられていないこと、死因順位が日本で一般的に一番よく使われている死亡統計であると考えられることから、順位分類も検討が必要と考えられる。次年度は国際比較も必要になると考えられる。

✓ 疾病分類については、複数の検討課題がある。日本国内でも、国民医療費に用いられている傷病分類は、疾病大分類よりも粗い分類であり、個別の病院報告などで用いられている疾病分類は疾病小分類より細かい ICD-10 コード、つまり基本分類を用いているものが多く、DPC においては基本分類への対応が示されている独自の疾病分類を用いており、現状で患者調査以外に疾病小分類を用いてる例が確認できない。国際的には、WHO の Global Health Estimates や米国ワシントン大学による Global Burden of Diseases では、リスク要

因や障害をもたらす原因という形で病名を用いているが、疾病分類別の患者数、という形の推計値を出しているわけではない。このような中、疾病大・中・小分類をICD-11に適合させるための検討よりも、そもそも疾病分類を何に用いるのか、という点について、改めて検討する必要があるのではないかと。近年では、統計は紙ではなくe-Statに掲載され、紙面の制限がなく、大分類でも基本分類でもファイルサイズの違いはあれど、一つのファイルとして提供されるようになり、閲覧や加工も簡単である。そのため、大分類や最小単位のコードの必要性はあるが、中程度に集約された分類は、その用途が明確でなければ、存在意義に欠ける。

✓ さらに現行の患者調査では患者一人に一つの主傷病が設定されており、それをどのように決定するのかが本研究で今年度理論モデルを構築したところではあるが、高齢者の慢性疾患は単一疾病であることは稀であり、複合死因の分析と同様、複合疾病(multi-morbidity)の分析ニーズは高いと考えられ、年度末に提供を受けたNDBデータを用い、この点を次年度に検討する予定である。

✓ 個別の死因・疾病分類について考察すると、まず老衰については、近年の日本における数の増加もあるが、諸外国でも死亡診断書にそう書かないが実際は老衰といえる死亡が増えている状況はあり、またICD-11の死因製表用リストにも老衰(Ageing associated decline in intrinsic capacity)が1つの項目として独立したことから、死因としての老衰をきちんと位置付けることのニーズは高まっていると考えられる。次年度は引き続き、調査分析を継続する。

✓ 心不全はICD-11により適切にその状態を把握できるようになったため、それをどのように治療に活用するかが課題であり、DPC疾病分類の適切なICD-11対応が欠かせない。つまり、ICD-11で設定されたコードに対応し、左室不全のうち、駆出率が保たれているか低下しているかといった状況も区別できるようなDPC分類にすれば、よりきめ細やかな治療を提供できるのではないだろうか。

✓ また現状の循環器系疾患のうち、死因簡単分類では日本でしか用いられていない「心疾患(高血圧性を除く)」という分類があるが、この分類の歴史的経緯を把握し、今後も継続するのか、次年度に検討を要する。

✓ 新生物章では、死因分類、疾病分類共に、ICD-11において、中枢神経系の新生物、リンパ腫、白血病が位置づけられるようになった。この点について、死因簡単分類における、新生物が悪性新生物かその他の新生物か、という大きな構造が変化したこととなり、その構造変化について、より細部を検討する必要がある。

✓ 新たに提案した死因簡単分類では、これまで人口動態統計で別掲として掲げられている中皮腫(C45)、熱中症(X30)を組み入れた。熱中症については、単にX30のみと考えよいか、次年度には複合死因分析により熱中症の範囲について分析する予定である。

E. 結論

今年度は、新しい死因簡単分類、およびICD-11に対応した死因・疾病分類を提案したが、引き続き改善が必要である。

新しい死因簡単分類は、ICD-11の章構造の変化に応じ、①血液及び造血器の疾

患と免疫機構の障害の分離、②睡眠障害、③性の健康の新設、ICD-11の章を超えた疾病の位置づけの変化により①インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症、②脳血管疾患の移動、ICD-11の章内の構造変化に応じ、中枢神経系の新生物、悪性リンパ腫、白血病の位置の移動、ICD-11の死因製表用リストの項目新設により、日本において死亡数の多い項目の挿入（子宮頸部・体部・部位不明悪性新生物、腎・腎盂の悪性新生物、栄養失調、代謝障害、レビー小体病、アルコール性肝疾患、肝線維症及び肝硬変、胆のう・胆管の障害、膵の障害、診断名不明確及び原因不明の死亡）、現在の死因簡単分類には含まれていないが人口動態統計の公表資料に別掲されている中皮腫、熱中症の追加、および1000人を下回る死亡数の項目の削除を施し作成した。

疾病分類については、その用途および国際的に用いられている疾病分類を考慮し、患者調査データとNDBデータによる疾病体系を比較したうえで、必要とされる疾病分類をまずは設定する必要がある。

老衰、心不全を含めた心疾患、がん、精神・神経系疾患、外因、生活機能については、今年度得られた知見を基に、さらなる分析を進める。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表

林玲子「公的統計からみたメンタルヘルス」
臨床精神医学、52(12) pp. 1477 - 1482 (2023.12)

Takei S, Kinoshita H, Jamal M, Yamashita

T, Tanaka E, Kawahara S, Abe H, Kimura S. An autopsy case of drowning under the influence of etizolam: a case report. *International Journal of Medical Toxicology and Forensic Medicine*. 2023; 13: 40000.

Takei S, Kinoshita H, Jamal M, Yamashita T, Tanaka E, Kawahara S, Kumihashi M, Abe H, Tsutsui K, Kimura S. An autopsy case of drowning under the influence of brotizolam overdose. *Review of Albanian Legal Medicine*. 2023; 15: 77-81.

Hayashi R, Imanaga T, Marui E, Kinoshita H, Ishii F, Shinohara E, Beppu M. Senility deaths in aged societies: The case of Japan. *Global Health & Medicine*. 2024. Feb 29; 6(1): 40-48.

2. 学会発表

Reiko Hayashi, Teruhiko Imanaga, Eiji Marui, Emiko Shinohara, Motomi Beppu, "Senility deaths in Japan - a multiple cause of death analysis using deaths certificate information", IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Poster Session, Pacifico Yokohama (2023.6.12)

Reiko Hayashi, "Cause of death statistics in Japan and future orientation in ICD-11 Era", Turning Gold: Conference on the Occasion of BiB's 50th Anniversary, Wiesbaden, Germany (2023.7.4)

林玲子「原死因・複合死因からみた日本における死因簡単分類-ICD-11適用に向けて」第82回日本公衆衛生学会総会、示説報告、つくば国際会議場 (2023.11.1)

今井健「国際疾病分類 ICD11 について」

NeXEHRs 第 12 回セミナー招待講演、
オンライン(2024.1.5)

林玲子「アジアにおける少子高齢化と医療・介護を巡る課題」日本国際保健医療学会 第 42 回西日本地方会、高知工科大学永国寺キャンパス地域連携棟
(2024.3.2)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 現行の死因簡単分類をベースとしたICD-11対応の新たな死因分類案(林総括研究報告書2 表4の再掲)

no	code	分類名	2022	変更理由等
1	01000	感染症及び寄生虫症	23,726	
2	01100	腸管感染症	2,037	
3	01200	結核	1,664	
4	01201	呼吸器結核	1,423	
5	01202	その他の結核	241	
6	01300	敗血症	11,346	
7	01400	ウイルス性肝炎	1,799	
	01401	—B型ウイルス性肝炎	353	
8	01402	C型ウイルス性肝炎	1,267	
9	01403	その他のウイルス性肝炎	532	
10	01500	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	53	
11	10100	インフルエンザ	24	ICD-11 配置
12	22200	COVID-19	47,661	ICD-11 製表用リスト
13	01600	その他の感染症及び寄生虫症	6,827	
14	02000	新生物<腫瘍>	399,471	
15		中枢神経系の新生物<腫瘍>	5,755	ICD-11 製表用リスト
16	02118	悪性リンパ腫	14,231	ICD-11 配置
17	02119	白血病	9,759	ICD-11 配置
18	02120	その他のリンパ組織, 造血組織及び関連組織の新生物<腫瘍>	4,392	ICD-11 製表用リスト
19	02100	悪性新生物<腫瘍>	363,002	
20	02101	口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>	8,429	
21	02102	食道の悪性新生物<腫瘍>	10,918	
22	02103	胃の悪性新生物<腫瘍>	40,711	
23	02104	結腸の悪性新生物<腫瘍>	37,236	
24	02105	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	15,852	
25	02106	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	23,620	
26	02107	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物<腫瘍>	17,756	
27	02108	膵の悪性新生物<腫瘍>	39,468	
28	02109	喉頭の悪性新生物<腫瘍>	798	
29	02110	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	76,663	
30	02111	皮膚の悪性新生物<腫瘍>	1,806	
31		中皮腫	1,554	現状で別掲、C45
32	02112	乳房の悪性新生物<腫瘍>	16,021	
33	02113	子宮の悪性新生物<腫瘍>	7,157	
34		子宮頸部の悪性新生物<腫瘍>	2,999	ICD-11 製表用リスト
35		子宮体部の悪性新生物<腫瘍>	2,863	ICD-11 製表用リスト
36		子宮の悪性新生物<腫瘍>, 部位不明	1,295	ICD-11 製表用リスト
37	02114	卵巣の悪性新生物<腫瘍>	5,182	
38	02115	前立腺の悪性新生物<腫瘍>	13,439	
39		腎・腎盂の悪性新生物	7,140	ICD-11 製表用リスト
40	02116	膀胱の悪性新生物<腫瘍>	9,598	
41	02121	その他の悪性新生物<腫瘍>	29,654	
42	02200	その他の新生物<腫瘍>	2,332	
43	03000	血液及び造血器の疾患	4,391	ICD-11 章
44	03100	貧血	2,455	
45	03200	その他の血液及び造血器の疾患	1,936	

46		免疫機構の障害	451	ICD-11 章
47	04000	内分泌, 栄養及び代謝疾患	26, 279	
48	04100	糖尿病	15, 927	
49		栄養失調(症)	2, 300	ICD-11 製表用リスト
50		代謝障害	5, 793	ICD-11 製表用リスト
51	04200	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	2, 259	
52	05000	精神及び行動の障害	27, 228	
53		統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	1, 182	ICD-11 製表用リスト
54	05100	血管性及び詳細不明の認知症	24, 360	
55	05200	その他の精神及び行動の障害	2, 868	
56		睡眠障害	142	ICD-11 章
57	06000	神経系の疾患	167, 710	
58	06200	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	2, 889	
59	06300	パーキンソン病	13, 394	
60	06400	アルツハイマー病	24, 860	
61		レビー小体病		ICD-11 製表用リスト
62	09300	脳血管疾患	107, 481	ICD-11 配置
63	09301	くも膜下出血	11, 468	ICD-11 配置
64	09302	脳内出血	33, 483	ICD-11 配置
65	09303	脳梗塞	59, 363	ICD-11 配置
66	09304	その他の脳血管疾患	3, 167	ICD-11 配置
67	06500	その他の神経系の疾患	19, 086	
68	07000	眼及び付属器の疾患	9	
69	08000	耳及び乳様突起の疾患	22	
70	09000	循環器系の疾患	273, 846	
71	09100	高血圧性疾患	11, 665	
72	09101	高血圧性心疾患及び心腎疾患	6, 424	
73	09102	その他の高血圧性疾患	5, 241	
74	09200	心疾患(高血圧性を除く)	232, 964	
75	09201	慢性リウマチ性心疾患	1, 983	
76	09202	急性心筋梗塞	32, 026	
77	09203	その他の虚血性心疾患	41, 159	
78	09204	慢性非リウマチ性心内膜疾患	12, 305	Heart valve diseases
79	09205	心筋症	3, 524	
80	09206	不整脈及び伝導障害	36, 291	
81	09207	心不全	98, 671	
82		収縮能が低下した心不全		ICD-11 分類
83		収縮能が保たれた心不全		ICD-11 分類
84		その他の心不全		ICD-11 分類
85	09208	その他の心疾患	7, 005	
86	09400	大動脈瘤及び解離	19, 987	
87	09500	その他の循環器系の疾患	9, 230	
88	10000	呼吸器系の疾患	186, 500	
89	10200	肺炎	74, 013	
	10300	急性気管支炎	209	
90	10400	慢性閉塞性肺疾患	16, 676	
91	10500	喘息	1, 004	
92	10601	誤嚥性肺炎	56, 069	
93	10602	間質性肺疾患	22, 905	

94		その他の呼吸器系の疾患	15,833	「その他」を整理
95	11000	消化器系の疾患	59,672	
96	11100	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	2,545	
97	11200	ヘルニア及び腸閉塞	8,319	
98		アルコール性肝疾患	6,296	ICD-11 製表用リスト
99		肝線維症及び肝硬変	8,654	11301 肝硬変
100		胆のう<囊>, 胆管の障害	8,021	ICD-11 製表用リスト
101		膵の障害	1,555	ICD-11 製表用リスト
102	11400	その他の消化器系の疾患	24,282	
103	12000	皮膚及び皮下組織の疾患	3,486	
104	13000	筋骨格系及び結合組織の疾患	10,584	
105	14000	腎尿路生殖器系の疾患	50,263	
106	14100	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	5,851	
107	14200	腎不全	30,739	
108	14201	急性腎不全	2,999	
109	14202	慢性腎臓病	22,841	
110	14203	詳細不明の腎不全	4,899	
111	14300	その他の腎尿路生殖器系の疾患	13,673	
112		性の健康	-	
113	15000	妊娠, 分娩及び産じょく	33	
114	16000	周産期に発生した病態	367	
	16100	—妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	42	
	16200	—出産外傷	5	
	16300	—周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	212	
	16400	—周産期に特異的な感染症	17	
	16500	—胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	33	
	16600	—その他の周産期に発生した病態	58	
115	17000	先天奇形, 変形及び染色体異常	2,011	
	17100	—神経系の先天奇形	91	
	17200	—循環器系の先天奇形	826	
	17201	——心臓の先天奇形	506	
	17202	——その他の循環器系の先天奇形	320	
	17300	—消化器系の先天奇形	86	
	17400	—その他の先天奇形及び変形	566	
	17500	—染色体異常, 他に分類されないもの	442	
	17100	—神経系の先天奇形	91	
116	18000	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	212,157	
117	18100	老衰	179,529	
118	18200	乳幼児突然死症候群	47	
119		診断名不明確及び原因不明の死亡(乳幼児突然死症候群を除く)	25,247	ICD-11 製表用リスト
120	18300	その他の症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	7,334	
121	20000	傷病及び死亡の外因	73,183	
122	20100	不慮の事故	43,420	
123	20101	交通事故	3,541	
124	20102	転倒・転落・墜落	11,569	
125	20103	不慮の溺死及び溺水	8,677	
126	20104	不慮の窒息	8,710	
127	20105	煙, 火及び火炎への曝露	967	
128	20106	有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	569	

129		自然の過度の高温への曝露(熱中症)	1,477	現状で別掲、X30
130	20107	その他の不慮の事故	7,910	
131	20200	自殺	21,252	
132	20300	他殺	213	
133	20400	その他の外因	8,298	

注: 「code」は2022年死因簡単分類番号、「2022」列は、2022年の死亡数。赤字は変更箇所。「その他の～」の死亡数は、その他以外の項目の変化により、公表数字とは異なるものがある。

表 2 新たな基本分類表・死因コード案と推計死亡者数(2022年度)(小川他分担研究報告書 別添資料1の再掲)

死因新分類コード	死因新分類項目名	死亡2022 男性	死亡2022 女性	死因新分類コード	死因新分類項目名	死亡2022 男性	死亡2022 女性
Mt2024 01101	コレラ	0	0	Mt2024 08201	くも膜下出血	4,317	7,151
Mt2024 01102	その他の腸内細菌感染症	153	165	Mt2024 08202	脳内出血	18,473	15,010
Mt2024 01103	細菌性食中毒	100	96	Mt2024 08203	脳梗塞	28,824	30,539
Mt2024 01104	梅毒	8	3	Mt2024 08204	その他の脳血管疾患	3,446	3,004
Mt2024 01105	その他の不特定の感染性胃腸炎および大腸炎	685	839	Mt2024 09000	眼及び付属器の疾患	5	4
Mt2024 01201	呼吸器系の結核	881	542	Mt2024 10000	耳及び乳突突起の疾患	11	11
Mt2024 01202	他の臓器および系の結核、後遺症および不特定の結核	371	379	Mt2024 11101	高血圧性心疾患	2,324	3,287
Mt2024 01300	敗血症	5,748	5,598	Mt2024 11102	高血圧性心腎疾患	356	459
Mt2024 01401	B型肝炎ウイルス性肝炎	212	141	Mt2024 11103	その他の高血圧性疾患	2,365	2,876
Mt2024 01402	C型肝炎ウイルス性肝炎	535	732	Mt2024 11201	慢性リウマチ性心疾患	646	1,337
Mt2024 01403	その他のウイルス性肝炎	85	94	Mt2024 11202	急性心筋梗塞	19,081	12,945
Mt2024 01500	ヒト免疫不全ウイルス「HIV」病	51	2	Mt2024 11203	その他の虚血性心疾患	25,147	16,012
Mt2024 01601	ペスト	0	0	Mt2024 11204	肺血栓塞栓症	1	1
Mt2024 01602	百日咳	1	0	Mt2024 11205	慢性非リウマチ性心内臓疾患	4,034	8,271
Mt2024 01603	破傷風	5	7	Mt2024 11206	心筋症	1,890	1,634
Mt2024 01604	ジフテリア	0	0	Mt2024 11207	不整脈及び伝導障害	10,555	12,456
Mt2024 01605	髄膜炎菌性疾患	98	72	Mt2024 11208	心不全	40,121	58,550
Mt2024 01606	急性灰白髄炎	30	36	Mt2024 11209	その他の心疾患	3,851	3,152
Mt2024 01607	狂犬病	0	0	Mt2024 11300	大動脈瘤及び解離	10,088	9,899
Mt2024 01608	黄熱病	0	0	Mt2024 11400	その他の循環器系の疾患	3,869	4,490
Mt2024 01609	ジカウイルス感染症	0	0	Mt2024 12100	慢性閉塞性肺疾患	14,019	2,657
Mt2024 01610	その他の節足動物媒介ウイルス性熱およびウイルス性出血熱	11	11	Mt2024 12200	その他の慢性下部呼吸器疾患	3	3
Mt2024 01611	エボラ出血熱	0	0	Mt2024 12300	喘息	377	627
Mt2024 01612	インフルエンザ	15	9	Mt2024 12400	肺炎	42,823	31,132
Mt2024 01613	麻疹	0	0	Mt2024 12500	急性気管支炎	92	117
Mt2024 01614	マラリア	0	0	Mt2024 12600	その他の急性下気道感染症	2,463	905
Mt2024 01615	アフリカトリパノソマ病	0	0	Mt2024 12700	外部要因による肺疾患	34,606	22,846
Mt2024 01616	シャーガス病	0	0	Mt2024 12800	その他の呼吸器系の疾患	20,787	13,931
Mt2024 01617	リーシュマニア症	0	0	Mt2024 13100	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	1,466	1,091
Mt2024 01618	住血吸虫症	0	0	Mt2024 13201	アルコール性肝疾患	5,437	859
Mt2024 01619	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0	Mt2024 13202	肝硬変(アルコール性を除く)	4,739	3,905
Mt2024 01620	コロナウイルス感染症2019	25,139	22,522	Mt2024 13203	その他の肝疾患	2,346	1,750
Mt2024 01699	その他の感染症及び寄生虫症	3,447	4,052	Mt2024 13300	胆嚢または胆道の疾患	3,389	4,454
Mt2024 02101	脳または中枢神経系の悪性新生物	1,741	1,378	Mt2024 13400	膵臓の疾患	860	695
Mt2024 02102	骨髄性悪性新生物	4,612	2,747	Mt2024 13500	炎症性腸疾患	1,811	1,033
Mt2024 02103	リンパ系悪性新生物	7,993	6,779	Mt2024 13600	ヘルニア及び腸閉塞	3,937	4,382
Mt2024 02104	造血組織およびリンパ組織のその他の悪性新生物	3,667	3,079	Mt2024 13700	その他の消化器系の疾患	4,154	4,426
Mt2024 02105	唇、口腔または咽頭の悪性新生物	5,960	2,469	Mt2024 14000	皮膚及び皮下組織の疾患	1,264	1,750
Mt2024 02106	食道の悪性新生物	8,790	2,128	Mt2024 15000	筋骨格系及び結合組織の疾患	2,364	3,266
Mt2024 02107	胃の悪性新生物	26,455	14,256	Mt2024 16100	糸球体疾患及び腎臓細管間質性疾患	675	657
Mt2024 02108	結腸の悪性新生物	17,975	18,698	Mt2024 16200	急性腎不全	1,522	1,477
Mt2024 02109	直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	9,884	5,968	Mt2024 16300	慢性腎臓病	12,198	10,643
Mt2024 02110	膀胱の悪性新生物	19,608	19,860	Mt2024 16400	詳細不明の腎不全	2,468	2,431
Mt2024 02111	肝及び肝内胆管の悪性新生物	15,717	7,903	Mt2024 16500	その他の腎臓生体組織系の疾患	6,394	11,185
Mt2024 02112	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	9,470	8,286	Mt2024 17000	性に関連する疾患	0	0
Mt2024 02113	喉頭の悪性新生物	723	75	Mt2024 18100	流産による疾患	0	5
Mt2024 02114	気管、気管支及び肺の悪性新生物	53,727	22,903	Mt2024 18200	妊娠、出産、または産褥期の浮腫、蛋白尿、または高血圧性状態	0	3
Mt2024 02115	皮膚の悪性新生物	893	913	Mt2024 18300	産科異常出血	0	4
Mt2024 02116	乳房の悪性新生物	109	15,912	Mt2024 18400	閉塞性分娩	0	0
Mt2024 02117	子宮頸部の悪性新生物	0	2,999	Mt2024 18500	産褥期の感染症	0	0
Mt2024 02118	子宮の他の部分の悪性新生物	0	4,393	Mt2024 18600	妊娠、出産、産褥に対する母体の感染症	0	0
Mt2024 02119	卵巣の悪性新生物	0	5,182	Mt2024 18700	妊娠、出産、産褥における他の部位での特定の母体疾患	0	5
Mt2024 02120	前立腺の悪性新生物	13,439	0	Mt2024 18800	妊娠、出産、産褥のその他の合併症	0	19
Mt2024 02121	腎臓および腎盂の悪性新生物	4,656	2,484	Mt2024 19100	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	23	19
Mt2024 02122	膀胱の悪性新生物	6,388	3,210	Mt2024 19200	出産外傷	5	0
Mt2024 02199	その他の悪性新生物	11,693	11,164	Mt2024 19300	周産期に特異的な感染症	13	4
Mt2024 02201	中枢神経系の新生物<腫瘍>	1,277	1,371	Mt2024 19400	周産期または新生児期に特有の呼吸器疾患	60	66
Mt2024 02202	中枢神経系を除く新生物<腫瘍>	5,957	4,906	Mt2024 19500	周産期または新生児期に存在する心血管障害	49	52
Mt2024 03100	鉄欠乏性貧血	31	61	Mt2024 19600	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	18	15
Mt2024 03200	その他の貧血	759	1,123	Mt2024 19700	その他の周産期に発生した病態	37	35
Mt2024 03300	血液または造血器官のその他の疾患	899	963	Mt2024 20101	心臓の先天奇形	234	272
Mt2024 04000	免疫系の疾患	1,734	2,508	Mt2024 20102	その他の循環器系の先天奇形	114	184
Mt2024 05100	糖尿病	8,980	6,924	Mt2024 20200	染色体異常、他に分類されないもの	207	235
Mt2024 05200	代謝障害	3,574	3,824	Mt2024 20300	神経系の先天奇形	34	37
Mt2024 05300	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	1,869	1,927	Mt2024 20400	消化器系の先天奇形	51	35
Mt2024 06100	統合失調症またはその他の原発性精神障害	508	674	Mt2024 20500	その他の先天奇形及び変形	2,500	2,420
Mt2024 06200	アルコールの使用による障害	359	37	Mt2024 21100	老衰	49,964	129,565
Mt2024 06300	オピオイドの使用による障害	0	0	Mt2024 21200	乳幼児突然死症候群	30	17
Mt2024 06400	他の物質の使用による障害	5	1	Mt2024 21300	その他の症状、徴候及び異常臨床所見、異常検査所見で他に	34,646	23,986
Mt2024 06500	血管性及び詳細不明の認知症	9,089	15,271	Mt2024 22100	意図せぬ陸上輸送における道路交通傷害事件	2,053	1,045
Mt2024 06600	その他の精神障害、行動障害、または神経発達障害	430	656	Mt2024 22200	その他の偶発的な輸送傷害事件	15,818	14,174
Mt2024 07000	睡眠覚醒障害	74	60	Mt2024 22300	その他の意図しない原因	2,247	1,801
Mt2024 08101	ハーモニン病	2,256	2,209	Mt2024 22400	意図が不十分なイベント	1	1
Mt2024 08102	アルツハイマー病	8,893	16,167	Mt2024 22500	武力紛争	0	0
Mt2024 08103	多発性硬化症	0	0	Mt2024 22600	法的介入	1	0
Mt2024 08104	白質変性症	49	55	Mt2024 22700	罹患率と死亡率のその他の外的原因	2,567	1,738
Mt2024 08105	髄膜炎	2,332	2,253	Mt2024 22800	その他の外因	21,209	10,528
Mt2024 08106	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	8,485	6,713		合計	799,420	769,627
Mt2024 08107	その他の神経系の疾患	1,136	1,197				

表 3 新たな基本分類表・疾病コード案と推計患者数(2020年度)(小川他分担研究報告書 別添資料2の再掲)

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
Mb2024c01001	コレラ	0.0	Mb2024c02010	骨及び関節軟骨の悪性新生物	0.7
Mb2024c01002	赤痢菌による腸感染症	0.0	Mb2024c02011	中皮及び軟部組織の悪性新生物	2.4
Mb2024c01003	大腸菌による腸感染症	0.0	Mb2024c02012	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	7.6
Mb2024c01004	クロストリジオイデス・デフィシルによる腸感染症	0.2	Mb2024c02013	食道の悪性新生物	7.6
Mb2024c01005	腸チフスとパラチフス	0.0	Mb2024c02014	胃の悪性新生物	26.4
Mb2024c01006	細菌性食中毒	0.2	Mb2024c02015	結腸の悪性新生物	29.9
Mb2024c01007	ウイルス性腸感染症	1.3	Mb2024c02016	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	14.7
Mb2024c01008	アメーバ症	0.0	Mb2024c02017	肛門及び肛門管の悪性新生物	0.4
Mb2024c01009	その他の消化器感染症	21.9	Mb2024c02018	膵の悪性新生物	11.3
Mb2024c01010	初期梅毒	0.0	Mb2024c02019	肝及び肝内胆管の悪性新生物	9.0
Mb2024c01011	先天梅毒	0.0	Mb2024c02020	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	5.9
Mb2024c01012	その他の梅毒	0.3	Mb2024c02021	その他の消化器の悪性新生物	0.6
Mb2024c01013	淋菌感染症	0.2	Mb2024c02022	喉頭の悪性新生物	1.7
Mb2024c01014	クラミジアによる性感染症	1.4	Mb2024c02023	気管、気管支及び肺の悪性新生物	34.5
Mb2024c01015	その他の主に性感染症	1.8	Mb2024c02024	その他の呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	1.0
Mb2024c01016	呼吸器系の結核	2.5	Mb2024c02025	乳房の悪性新生物	40.5
Mb2024c01017	他の臓器およびシステムの結核	0.4	Mb2024c02026	卵巣の悪性新生物	4.2
Mb2024c01018	ハンセン病	0.4	Mb2024c02027	皮膚の悪性黒色腫	0.6
Mb2024c01019	ペスト	0.0	Mb2024c02028	その他の皮膚の悪性新生物	2.2
Mb2024c01020	ブルセラ症	0.0	Mb2024c02029	子宮頸(部)の悪性新生物	4.2
Mb2024c01021	百日咳	0.0	Mb2024c02030	子宮体(部)の悪性新生物	4.6
Mb2024c01022	新生児破傷風	0.0	Mb2024c02031	子宮の部位不明の悪性新生物	0.5
Mb2024c01023	その他の破傷風	0.0	Mb2024c02032	胎盤の悪性新生物	0.0
Mb2024c01024	ジフテリア	0.0	Mb2024c02033	女性生殖器のその他の悪性新生物	0.4
Mb2024c01025	髄膜炎菌性疾患	0.0	Mb2024c02034	前立腺の悪性新生物	25.5
Mb2024c01026	敗血症	3.8	Mb2024c02035	精巣の悪性新生物	0.4
Mb2024c01027	その他の細菌性疾患	33.4	Mb2024c02036	男性生殖器のその他の悪性新生物	0.1
Mb2024c01028	再発熱	0.0	Mb2024c02037	膀胱の悪性新生物	11.6
Mb2024c01029	トラコーム	0.0	Mb2024c02038	腎及び腎盂の悪性新生物	5.3
Mb2024c01030	発疹チフス	0.0	Mb2024c02039	その他の尿路の悪性新生物	1.2
Mb2024c01031	結核を伴うヒト免疫不全ウイルス疾患	0.0	Mb2024c02040	眼及び付属器の悪性新生物	0.0
Mb2024c01032	マラリアに関連するヒト免疫不全ウイルス疾患	0.0	Mb2024c02041	甲状腺の悪性新生物	3.6
Mb2024c01033	結核やマラリアの記載がないヒト免疫不全ウイルス疾患	1.9	Mb2024c02042	その他の悪性新生物	10.0
Mb2024c01034	急性ポリオ炎	0.1	Mb2024c02043	子宮頸(部)の上皮内癌	0.4
Mb2024c01035	狂犬病	0.0	Mb2024c02044	皮膚の良性新生物	4.1
Mb2024c01036	中枢神経系のその他のウイルス感染症	0.5	Mb2024c02045	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	5.2
Mb2024c01037	黄熱病	0.0	Mb2024c02046	乳房の良性新生物	0.8
Mb2024c01038	ジカウイルス感染症	0.0	Mb2024c02047	子宮平滑筋腫	12.4
Mb2024c01039	重症急性呼吸器症候群	0.0	Mb2024c02048	卵巣の良性新生物	3.0
Mb2024c01040	その他の節足動物媒介ウイルス性熱およびウイルス性出血熱	0.0	Mb2024c02049	腎尿路の良性新生物	0.2
Mb2024c01041	おたふく風邪	0.1	Mb2024c02050	その他の上皮内新生物	0.5
Mb2024c01042	インフルエンザ	0.5	Mb2024c02051	皮膚の良性新生物	0.0
Mb2024c01043	急性A型肝炎	0.0	Mb2024c02052	その他の新生物	43.8
Mb2024c01044	ウイルス性B型肝炎	4.3	Mb2024c03001	鉄欠乏性貧血	9.7
Mb2024c01045	ウイルス性C型肝炎	5.1	Mb2024c03002	その他の貧血	4.9
Mb2024c01046	その他のウイルス性肝炎	0.4	Mb2024c03003	播種性血管内凝固症候群	0.9
Mb2024c01047	サル痘(mpxv)	0.0	Mb2024c03004	その他の凝固欠陥、紫斑病、その他の出血性疾患または関連疾患	3.3
Mb2024c01048	水痘	0.4	Mb2024c04001	アナフィラキシー	0.6
Mb2024c01049	帯状疱疹	12.2	Mb2024c04002	その他のアレルギーまたは過敏症	4.2
Mb2024c01050	ヘルペスウイルス感染症	4.6	Mb2024c04003	関節リウマチ	0.0
Mb2024c01051	風疹	0.1	Mb2024c04004	全身性エリテマトーデス<SLE>	3.1
Mb2024c01052	麻疹	0.0	Mb2024c04005	乾燥症候群[シェーグレン症候群]	2.9
Mb2024c01053	皮膚糸状菌症	22.3	Mb2024c04006	その他の全身性結合組織障害	9.3
Mb2024c01054	カンジダ症	5.8	Mb2024c04007	移植片対宿主病(GVHD)	1.0
Mb2024c01055	その他の真菌症	2.9	Mb2024c04008	その他の非臓器特異的な全身性自己免疫疾患	0.0
Mb2024c01056	マラリア	0.0	Mb2024c04009	出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	1.0
Mb2024c01057	アフリカトバノミア症	0.0	Mb2024c04010	免疫機構の障害	2.1
Mb2024c01058	シャーガス病	0.0	Mb2024c04011	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	0.9
Mb2024c01059	リーシュマニア症	0.0	Mb2024c05001	甲状腺機能低下症	10.6
Mb2024c01060	フィラリア症	0.0	Mb2024c05002	甲状腺中毒症	11.6
Mb2024c01061	ドラクンキュリア症	0.0	Mb2024c05003	甲状腺炎	6.9
Mb2024c01062	鉤虫症	0.0	Mb2024c05004	その他の甲状腺障害	4.5
Mb2024c01063	エキソコックス症	0.0	Mb2024c05005	インスリン依存性糖尿病	5.9
Mb2024c01064	住血吸虫症	0.0	Mb2024c05006	インスリン非依存性糖尿病	145.9
Mb2024c01065	その他の蠕虫症	0.2	Mb2024c05007	その他の糖尿病	77.5
Mb2024c01066	結核の後遺症	0.5	Mb2024c05008	インスリン依存性糖尿病の急性合併症	0.0
Mb2024c01067	ハンセン病の後遺症	0.5	Mb2024c05009	インスリン非依存性糖尿病の急性合併症	0.0
Mb2024c01068	ポリオの後遺症	0.1	Mb2024c05010	その他の糖尿病の急性合併症	0.7
Mb2024c01069	その他の感染症および寄生虫症	41.8	Mb2024c05011	栄養失調(症)	0.6
Mb2024c01070	コロナウイルス感染症2019	6.7	Mb2024c05012	ビタミンA欠乏症	0.0
Mb2024c02001	脳の原因性腫瘍	1.9	Mb2024c05013	他の形態のビタミンおよびミネラル欠乏症	1.1
Mb2024c02002	中枢神経系の悪性新生物	0.0	Mb2024c05014	栄養失調または特定の特定の栄養欠乏症の後遺症	0.0
Mb2024c02003	中枢神経系のその他の新生物	6.7	Mb2024c05015	過体重または肥満(症)	0.9
Mb2024c02004	白血病	5.6	Mb2024c05016	体液量減少(症)	7.3
Mb2024c02005	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	5.5	Mb2024c05017	卵巣機能障害	0.6
Mb2024c02006	その他の新生物	4.2	Mb2024c05018	栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	0.5
Mb2024c02007	ホジキン病	0.5	Mb2024c05019	高脂血症	153.7
Mb2024c02008	非ホジキンリンパ腫	12.5	Mb2024c05020	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	27.3
Mb2024c02009	造血組織およびリンパ組織のその他の新生物	0.2	Mb2024c06001	知的発達障害	7.3

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
Mb2024c06002	自閉症スペクトラム障害	4.6	Mb2024c11016	心筋症	3.7
Mb2024c06003	注意欠陥多動性障害	7.0	Mb2024c11017	不整脈及び伝導障害	47.6
Mb2024c06004	その他の神経発達障害	18.8	Mb2024c11018	その他の心疾患	0.9
Mb2024c06005	統合失調症またはその他の原発性精神障害	192.8	Mb2024c11020	動脈硬化(症)	8.4
Mb2024c06006	双極性障害または関連障害	29.2	Mb2024c11021	大動脈瘤及び解離	8.5
Mb2024c06007	うつ病性障害	88.8	Mb2024c11022	レイノウ症候群	0.1
Mb2024c06008	不安または恐怖に関連した障害	31.4	Mb2024c11023	動脈の塞栓症及び血栓症	1.2
Mb2024c06009	強迫性障害または関連した障害	3.5	Mb2024c11024	その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	2.2
Mb2024c06010	ストレスに関連する障害	13.4	Mb2024c11025	静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	3.0
Mb2024c06011	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	9.7	Mb2024c11026	下肢の静脈瘤	4.6
Mb2024c06012	大麻および合成カンナビノイドの使用による障害	0.0	Mb2024c11028	食道静脈瘤	0.0
Mb2024c06013	オピオイドの使用による障害	0.0	Mb2024c11029	低血圧(症)	2.0
Mb2024c06014	物質使用によるその他の障害	2.8	Mb2024c11030	その他の循環器系の疾患	13.2
Mb2024c06015	アルツハイマー病による認知症	0.0	Mb2024c12001	急性鼻咽頭炎【かぜ】<感冒>	18.9
Mb2024c06016	脳血管疾患による認知症	3.3	Mb2024c12002	急性副鼻腔炎	24.8
Mb2024c06017	その他の未知または不特定の原因による認知症	39.6	Mb2024c12003	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	44.6
Mb2024c06018	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	0.0	Mb2024c12004	急性喉頭炎及び気管炎	1.5
Mb2024c06019	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.5	Mb2024c12005	その他の急性上気道感染症	71.7
Mb2024c06020	気分【感情】障害(躁うつ病を含む)	0.0	Mb2024c12006	アレルギー性鼻炎	104.9
Mb2024c06021	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1.9	Mb2024c12007	慢性副鼻腔炎	24.7
Mb2024c06022	その他の精神及び行動の障害	38.3	Mb2024c12008	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	3.8
Mb2024c07001	不眠障害	22.5	Mb2024c12009	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	1.2
Mb2024c07002	その他の睡眠覚醒障害	21.3	Mb2024c12010	その他の上気道の疾患	4.7
Mb2024c08101	パーキンソン病	19.5	Mb2024c12011	急性又は慢性と明示されない気管支炎	1.8
Mb2024c08102	アルツハイマー病	92.7	Mb2024c12012	慢性閉塞性肺疾患	21.6
Mb2024c08103	多発性硬化症	1.4	Mb2024c12013	喘息	91.8
Mb2024c08104	てんかんまたは発作	20.9	Mb2024c12014	肺炎	27.8
Mb2024c08105	片頭痛	8.9	Mb2024c12015	じん肺(症)	0.6
Mb2024c08106	その他の頭痛症候群	11.1	Mb2024c12016	急性呼吸促拍症候群	0.0
Mb2024c08107	髄膜炎	0.4	Mb2024c12017	呼吸不全	0.0
Mb2024c08108	中枢神経系の炎症性疾患	1.1	Mb2024c12019	急性気管支炎	46.9
Mb2024c08109	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	4.0	Mb2024c12019	急性細気管支炎	0.1
Mb2024c08110	神経、神経根及び神経そうの障害	19.3	Mb2024c12020	慢性閉塞性肺疾患	0.3
Mb2024c08111	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	14.3	Mb2024c12021	気管支拡張症	1.6
Mb2024c08112	自律神経系の障害	4.2	Mb2024c12022	間質性肺疾患	9.0
Mb2024c08113	その他の神経系の疾患	71.8	Mb2024c12023	気胸	2.2
Mb2024c08201	くも膜下出血	11.9	Mb2024c12024	その他の呼吸器系の疾患	38.1
Mb2024c08202	脳内出血	42.4	Mb2024c13001	歯肉	2.7
Mb2024c08203	その他の脳血管疾患	0.0	Mb2024c13002	歯肉炎及び歯周疾患	10.1
Mb2024c08204	一過性脳虚血発作及び関連症候群	1.7	Mb2024c13003	その他の歯及び歯の支持組織の障害	12.7
Mb2024c08205	脳梗塞	126.9	Mb2024c13004	口内炎及び関連疾患	3.5
Mb2024c08206	その他の脳血管疾患	7.9	Mb2024c13005	その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	5.8
Mb2024c09001	麦粒腫及び霰粒腫	4.4	Mb2024c13006	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	26.5
Mb2024c09002	涙器の障害	0.0	Mb2024c13007	胃潰瘍	12.1
Mb2024c09003	結膜炎	29.7	Mb2024c13008	十二指腸潰瘍	2.0
Mb2024c09004	角膜炎	11.9	Mb2024c13009	部位不明の消化性潰瘍	0.2
Mb2024c09005	白内障	70.9	Mb2024c13010	胃炎及び十二指腸炎	60.7
Mb2024c09006	網膜剥離及び裂孔	4.7	Mb2024c13011	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	4.2
Mb2024c09007	網膜血管閉塞症	0.0	Mb2024c13012	虫垂の疾患	3.3
Mb2024c09008	緑内障	65.0	Mb2024c13013	急性または亜急性肝不全	0.4
Mb2024c09009	斜視または眼球運動障害	2.4	Mb2024c13014	非アルコール性脂肪肝疾患	4.0
Mb2024c09010	屈折及び調節の障害	39.2	Mb2024c13015	アルコール性肝疾患	30.7
Mb2024c09011	盲<失明>及び低視力	0.0	Mb2024c13016	肝硬変(アルコール性のものを除く)	6.3
Mb2024c09012	その他の視覚障害	4.8	Mb2024c13017	その他の肝疾患	6.4
Mb2024c09013	その他の眼及び付属器の疾患	75.4	Mb2024c13018	胆石症	9.5
Mb2024c10001	中耳炎	27.5	Mb2024c13019	眼のう炎	17.2
Mb2024c10002	耳管炎	0.0	Mb2024c13020	急性肺炎	2.4
Mb2024c10003	耳管閉塞	4.0	Mb2024c13021	慢性肺炎	2.7
Mb2024c10004	中耳炎鼓腫	1.4	Mb2024c13022	その他の器疾患	0.2
Mb2024c10005	その他の中耳及び乳様突起の疾患	0.7	Mb2024c13023	異径ヘルニア	4.7
Mb2024c10006	難聴	15.6	Mb2024c13024	その他のヘルニア	2.6
Mb2024c10007	外耳炎	18.5	Mb2024c13025	クローン病	2.4
Mb2024c10008	耳垢栓塞	9.5	Mb2024c13026	潰瘍性大腸炎	8.2
Mb2024c10009	その他の外耳疾患	0.0	Mb2024c13027	腸閉塞	0.0
Mb2024c10010	メニエール病	7.4	Mb2024c13028	過敏性腸症候群	17.9
Mb2024c10011	その他の内耳疾患	6.8	Mb2024c13029	便秘	7.7
Mb2024c10012	その他の耳疾患	0.4	Mb2024c13030	裂肛及び痔瘻	12.4
Mb2024c11001	本態性(原発性)高血圧(症)	594.2	Mb2024c13031	腹膜炎	1.5
Mb2024c11002	高血圧性心疾患	3.0	Mb2024c13032	その他の胃腸の疾患	0.2
Mb2024c11003	高血圧性腎疾患	0.6	Mb2024c13033	その他の消化器系の疾患	11.4
Mb2024c11004	高血圧性心腎疾患	0.0	Mb2024c13034	痔核	10.8
Mb2024c11005	二次性高血圧症	0.9	Mb2024c14001	皮膚及び皮下組織の感染症	0.9
Mb2024c11006	急性心筋梗塞	6.6	Mb2024c14002	アトピー性皮膚炎	52.7
Mb2024c11007	狭心症	38.3	Mb2024c14003	接触皮膚炎	26.9
Mb2024c11008	冠動脈硬化症	0.7	Mb2024c14004	その他の皮膚炎及び湿疹	61.2
Mb2024c11009	陳旧性心筋梗塞	8.0	Mb2024c14005	乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	10.3
Mb2024c11010	その他の虚血性心疾患	11.4	Mb2024c14006	さ瘡<アケネ>	25.2
Mb2024c11011	肺塞栓症	1.4	Mb2024c14007	瘡瘍	6.0
Mb2024c11012	うっ血性心不全	24.1	Mb2024c14008	じんま疹	22.6
Mb2024c11013	その他の心不全	33.8	Mb2024c14009	爪の障害	6.2
Mb2024c11014	慢性リウマチ性心疾患	1.2	Mb2024c14010	脱毛症	10.1
Mb2024c11015	慢性非リウマチ性心内臓疾患	8.2	Mb2024c14011	色素異常症	6.6

疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数	疾病新分類コード	疾病新分類項目名	推計患者数
Mb2024c14012	うおのめ及びべんち	4.5	Mb2024c18018	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	1.6
Mb2024c14013	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	61.0	Mb2024c18019	主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的病態、他に分類されない	0.4
Mb2024c15001	変形性関節症	223.8	Mb2024c19001	新生児の障害	3.9
Mb2024c15002	関節リウマチ	33.9	Mb2024c19002	未熟児の障害	0.0
Mb2024c15003	痛風	8.3	Mb2024c19003	早産児の障害	1.1
Mb2024c15004	その他の炎症性多発性関節障害	15.1	Mb2024c19004	出産外傷	0.0
Mb2024c15005	四肢の後天性変形	4.0	Mb2024c19005	胎児または新生児の敗血症	0.0
Mb2024c15006	膝内障	3.0	Mb2024c19006	胎児または新生児のその他の感染症	0.5
Mb2024c15007	その他の関節障害	12.2	Mb2024c19007	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	1.7
Mb2024c15008	脊椎障害(脊椎症を含む)	251.1	Mb2024c19008	新生児の低体温症	0.0
Mb2024c15009	椎間板障害	78.2	Mb2024c19009	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	0.0
Mb2024c15010	頸痛症候群	0.0	Mb2024c19010	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	0.8
Mb2024c15011	腰痛症及び坐骨神経痛	0.0	Mb2024c19011	その他の周産期に発生した病態	1.0
Mb2024c15012	その他の背部痛	0.0	Mb2024c20001	二分脊椎く脊椎断裂	0.2
Mb2024c15013	その他の脊柱障害	27.2	Mb2024c20002	その他の神経系の先天奇形	1.0
Mb2024c15014	軟部組織障害	51.5	Mb2024c20003	唇裂及び口蓋裂	0.9
Mb2024c15015	肩の傷害く損傷	78.5	Mb2024c20004	心臓の先天奇形	2.6
Mb2024c15016	骨粗しょう症	63.7	Mb2024c20005	その他の循環器系の先天奇形	0.7
Mb2024c15017	その他の骨の密度及び構造の障害	2.9	Mb2024c20006	その他の先天奇形	19.5
Mb2024c15018	骨髄炎	1.4	Mb2024c20007	ダウン症候群(完全な21トリソミー)	1.4
Mb2024c15019	若年性骨軟骨症く骨端症	1.8	Mb2024c20008	小腸の先天欠損、閉鎖及び狭窄	0.0
Mb2024c15020	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	5.2	Mb2024c20009	その他の消化器系の先天奇形	0.8
Mb2024c16001	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	0.3	Mb2024c20010	その他の泌尿生殖器系の先天奇形	0.6
Mb2024c16002	卵管及び卵巣炎	0.1	Mb2024c20011	股関節部の先天変形	0.8
Mb2024c16003	子宮内膜炎	5.9	Mb2024c20012	足の先天変形	0.6
Mb2024c16004	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	2.2	Mb2024c20013	脊柱及び骨性胸郭の先天奇形	0.0
Mb2024c16005	卵巣、卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	0.2	Mb2024c20014	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	0.7
Mb2024c16006	月経障害	14.8	Mb2024c20015	停留精巣く睾丸	0.2
Mb2024c16007	閉経期及びその他の閉経周辺期障害	24.6	Mb2024c20016	染色体異常、他に分類されないもの	1.0
Mb2024c16008	女性不妊症	19.6	Mb2024c21001	腰痛及び骨盤痛	3.0
Mb2024c16009	その他の女性生殖器の疾患	13.1	Mb2024c21002	めまい	16.1
Mb2024c16010	前立腺肥大(症)	36.4	Mb2024c21003	不明熱	2.3
Mb2024c16011	前立腺の炎症およびその他の疾患	2.0	Mb2024c21004	老衰	0.6
Mb2024c16012	水体腔または精原体	0.3	Mb2024c21005	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されない	147.0
Mb2024c16013	男性不妊症	0.4	Mb2024c22001	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	0.0
Mb2024c16014	糸刺包皮、包茎または嵌頓包茎	0.4	Mb2024c22002	頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	0.0
Mb2024c16015	乳房の障害	10.5	Mb2024c22003	大腿骨の骨折	0.3
Mb2024c16016	急性及び急速進行性肺炎症候群	0.7	Mb2024c22004	その他の四肢の骨折	0.8
Mb2024c16017	ネフローゼ症候群	4.5	Mb2024c22005	明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びヒストレイン	45.2
Mb2024c16018	その他の糸球体疾患	1.1	Mb2024c22006	眼球及び眼窩の損傷	17.3
Mb2024c16019	腎尿管間質性疾患	10.1	Mb2024c22007	頭蓋内損傷	0.0
Mb2024c16020	急性腎不全	1.9	Mb2024c22008	その他の内臓の損傷	0.0
Mb2024c16021	慢性腎不全	147.8	Mb2024c22009	明示された部位及び多部位の挫減損傷及び外傷性切断	22.3
Mb2024c16022	その他の腎不全	0.8	Mb2024c22010	その他の明示された部位、部位不明及び多部位の損傷	0.0
Mb2024c16023	尿路結石症	9.6	Mb2024c22011	自然開口部からの異物侵入の作用	3.3
Mb2024c16024	膀胱炎	11.9	Mb2024c22012	熱傷及び凍傷	0.1
Mb2024c16025	その他の泌尿器系の疾患	32.9	Mb2024c22013	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	221.4
Mb2024c16026	女性性器脱	3.9	Mb2024c22014	有害物質の有害な影響または有害物質への曝露。発生源として主に非医薬品	13.9
Mb2024c16027	その他の男性生殖器の疾患	1.8	Mb2024c22015	その他及び詳細不明の外国の作用	0.1
Mb2024c16028	子宮頸(部)の炎症性疾患	0.4	Mb2024c22016	外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されない	12.2
Mb2024c17000	性的健康に関連する疾患	2.4	Mb2024c22017	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症	75.9
Mb2024c18001	自然流産	0.5	Mb2024c22018	多部位の骨折	0.1
Mb2024c18002	医学的人工流産	0.1	Mb2024c23001	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.0
Mb2024c18003	子宮外妊娠	0.3	Mb2024c23002	検査及び診察のための保健サービスの利用者	0.0
Mb2024c18004	妊娠によるその他の不特定の中絶結果	0.7	Mb2024c23003	避妊管理	0.0
Mb2024c18005	妊娠高血圧症	0.2	Mb2024c23004	その他の生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0.0
Mb2024c18006	妊娠高血圧腎症及び子癇	0.6	Mb2024c23005	出生地別の新生児数	0.0
Mb2024c18007	妊娠早期の出血(切迫流産を含む)	4.1	Mb2024c23006	分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	0.0
Mb2024c18008	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	0.3	Mb2024c23007	分娩後のケア及び検査	0.0
Mb2024c18009	分娩内出血	0.0	Mb2024c23008	臓器または組織のドナー	0.0
Mb2024c18010	分娩後出血	0.1	Mb2024c23009	特定の処置(歯の補てつを除く)及び保健ケアのための保健サービスの利用	0.0
Mb2024c18011	妊娠中の糖尿病	1.4	Mb2024c23010	予防接種	0.0
Mb2024c18012	早産	3.9	Mb2024c23011	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのあるその他の者	0.0
Mb2024c18013	閉塞性分娩	0.1	Mb2024c23012	歯の補てつ	0.0
Mb2024c18014	胎死自然分娩	6.4	Mb2024c23013	腎透析依存	0.0
Mb2024c18015	帝王切開による出産	0.6	Mb2024c23014	その他の理由による保健サービスの利用者	0.1
Mb2024c18016	主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的病態、他に分類されない	0.9	Mb2024cXXXX	others	2,035.2
Mb2024c18017	その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに予想される分娩の諸	4.5		合計	8,325.5